

6-4 し尿処理計画

1. 現状

① 施設の現状等

汚泥再生処理施設：平成16年4月稼働
100 KL/日（生：浄化=36：64kl/日
下水道脱水汚泥1.32 t/日）
太陽光発電：発電能力最大50kw

第3プラント：昭和63年11月稼働
100 kl/日（生：浄化=70：30kl/日）



② し尿量等

し尿の搬入量は年間約 55,000 t で、公共下水道の整備と共に著しく減少しています。

③ 経費

年間約4億の経費がかかっています。運転管理や施設維持は、第3セクターに長期（5年間）の包括的業務委託をしており、機械整備工事は長期計画に基づいて実施しています。

④ 循環型処理

処理後の灰や汚泥は全て肥料化しており、リサイクルに取り組んでいます。

2. 課題

① 処理量の減少が今後も続くと推測され、現有2施設の稼働から1施設への稼働が課題です。

② 維持・工事費の削減が必要です。

③ 高温・高電圧設備であり、危機管理の徹底が必要です。

④ リサイクル活動として肥料の無料配布の継続が課題です。

3. 計画

(ア) 事業

① 人口、し尿搬入量の適正な将来予測に基づき、1施設化の準備、稼働に入ります。

② 1施設化への移行に伴う包括受託者との契約内容等を整えます。

③ 経常的修繕や交換の計画化と見直しを徹底し、効率化を図ります。

④ 肥料のより有効な活用を検討します。

⑤ 包括受託会社を含めた危機管理対策を実施します。

(イ) 施設整備計画

委託料等の一般経費は、搬入量の減少と第3プラントの停止によりコストを抑えるものとなりました。第3プラント停止時期である平成28年度以降については、現段階では一定の減少となりました。

単位：百万円

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
一般経費 (人件費除く)	委託料等（経常分）	290	280	285	283	235	228	221	220	215	212	212	208	209
工事費	通常整備（経常分）	100	113	100	96	128	57	78	62	66	66	87	43	97
	第3プラント整備	38	16	31	28	17	—	—	—	—	—	—	—	—
	汚泥再生処理施設整備	61	96	65	63	108	55	77	59	66	64	86	42	96
	浸出水処理施設整備	1	1	4	5	3	2	1	3		2	1	1	1
し尿処理計画 合計		390	393	385	379	363	285	299	282	281	278	299	251	306

※委託料等一般経費及び通常整備費が今後減少してくる要因は、し尿搬入量の絶対的減少により燃料、薬剤、電気代等需用費及び平成28年度からの第3プラント停止による整備費の減額です。